

製品解説書

SteinMusic

マエストロ Maestro (Sound Optimizing Treatment)

ストラディバリウスのバイオリンが素晴らしい音色を出すことは良く知られた事実です。その音の良さの秘密が彼の類稀なる設計センスによることは疑うべくもありませんが、それに加えて仕上げ剤の成分と処方が大きく寄与していることはあまり知られていません。SteinMusicでは、ストラディバリウスが成しえた名機の仕上げを現代に復活させようと研究を重ね、21世紀になってやっとその目的を達成しました。

マエストロは、SteinMusicによって開発されたオーディオ・リトメントラッカーです。マエストロはスピーカ、アンプ、プレーヤ、ピックアップ、ケーブルなど、音楽再生に関係する様々な機器に効果があります。

[マエストロでどうして音がよくなるのでしょうか？]

私たちの耳は音を捉える唯一の器官です。器官としての耳は内耳骨の振動を介して音を脳に伝えています。つまり、脳に伝えられる音は全て内耳骨の共振スペクトラムを含み、ゆがんだ形で伝達されています。この歪みを補正するため、人間の脳はある種のフィルタ回路を内蔵しており、内耳骨の共振による歪の影響を少なくしています。つまり言い換えれば、聴覚のインピーダンスは共振点において高くなっています。

このことは、脳に正しい情報を伝達するためには、耳の共振スペクトラムに正しく合わせた音で入力してやらなければならないということの意味します。そうでないときは、インピーダンスのミスマッチで引き起こされる歪が、音楽のディテールや空間の情報などを潰してしまいます。

ターンテーブルやスピーカ、あるいはバイオリンなど、音楽再生に関わる機器の共振点スペクトラムを、人間の耳の共振点スペクトラムに近づけてやると素晴らしい音質改善が見られます。

マエストロはこのような目的のために開発されました。

つまり、マエストロは、機器の共振スペクトラムを人間の耳のそれに合うように調整する能力を持っています。

[使用方法]

マエストロは最高級の樹脂材料で作られています。それらの材料は機械的共振スペクトラムを人の耳のそれにより近づけるよう、特に純粋な天然樹脂から厳選されて調合されています。マエストロはほとんど透明な琥珀色の液体です。塗装後は約1日で乾きますが、その後約1週間でベスト状態になります。この乾燥の過程では、機器の音質は徐々に改善されていきます。日々くぐぐ音が良くなっていくことを感じられるでしょう。

マエストロが完全に硬化した後は、マエストロを処置する前の同一機器などとは比較の対象にもならないほどの差がついているはずで

完全に乾いたマエストロの表面は光沢を持ち、輝いています。しかし割れが生じない程度には柔らかく、防水で、熱にも強い特性をもっています。その仕上げ表面は、かつてガルネリやストラディバリが試行錯誤の末に到達した仕上げとそっくりな外観になります。

以下に各オーディオ機器への適用の仕方を記述しますが、いずれの場合でも1回ではなく2回～3回の重ね塗りすることをお勧めします。

[スピーカ]

スピーカシステムへの適用は、最も顕著な効果を示します。

共振スペクトラムが全ての周波数帯で共通になるよう、全てのスピーカユニットに処置する必要があります。

マエストロは非常に伸展性のよい液剤ですので、良く伸ばしながら薄く塗布して下さい。どのスピーカユニットにも満遍なく2度、重ね塗りして下さい。塗りど次の塗りの間は最低1日あけて下さい。特に紙など浸透性の高い素材に使う場合はよく乾燥させてから重ね塗りをして下さい。

スコカやツイータなどにもまったく問題なく使用できます。その材料が、紙、ポリエステル、チタン、織物など一切関係ありません。ホーンドライバのダイヤフラムやマグネットハウジング内のフィルムダイヤフラムもまったく同様に処置できます。

スピーカ・エンクロージャも外部塗装をマエストロで仕上げることで改善されることは明らかです。ただこの場合はマエストロを大量に必要としますし、スプレーなどでの塗布をお勧めします。

[電子部品・基板回路]

よく知られることですが、電流が抵抗中を流れるとき、電子は抵抗物質により流れを遮られ、狭い分子構造の中をせめぎあい、速度を落としながら通過していきます。その結果として熱も出るため、熱振動と相応して抵抗振動を生じます。つまり、抵抗を流れるときの電流のひずみがあるまま機械共振スペクトラムに反映されます。これと同じことが、コンデンサ、半導体、配線、基板パターンなど全ての電子部品について言えます。ですからこれら全ての部品にマエストロを塗って効果があります。

ただし、真空管表面は高熱になるため過熱の危険があり、マエストロを塗ってはいけません。マエストロは高熱にさらされますとカーボンを析出し絶縁低下の原因となります。このため、真空管ばかりでなく、塗布後の部品交換で半田鍍をあてたりする部分へは塗布なさらないほうがよいでしょう。

[ケーブル]

ケーブルは音楽信号を伝達する大切なパイプですが、自らの抵抗やインピーダンスのために常に振動しています。ケーブルにマエストロを塗布することで驚くほど改善されます。

SteinMusic製の高級ケーブルの新シリーズは、今後全てマエストロで処理されてから出荷されます。

[CD]

ラベル面に塗布することで明らかな改善がみられます。ただし、当然ながらレーザ面には絶対に塗ってはいけません。

[CDP]

アナログ基板の部品面を2回、全体を固化するようにコートして下さい。これで部品を密着した状態を作り、同時に各部品をカパーするようにして下さい。また、基板下面にも塗布して下さい。

ただし、レンズやスイッチ、コネクタなどの接触面には絶対に塗ってはいけません。

[アナログプレーヤ]

カートリッジに注意深く2度塗りして下さい。アーム、マット、ケーブルにお使いいただいても効果があります。

・・・などなど、この他、いろいろな部分にお試し下さい。
特に音楽再生時に「仕事をしている部分」にお使いになると効果的です。

< ご注意 >

マエストロは浸透性の部位に一度塗ってしまうと元には戻せません。スピーカコーンや細かい電子回路などでは溶剤を使っても完全に除去することは不可能です。マエストロを塗布される前によく検討し、全て自己責任にて処理を実施して下さい。

また、高温にさらされる部分への塗布はなさらないで下さい。塗布した部品を半田鍍で取り外す場合は、鍍の高熱で炭化したマエストロが絶縁低下を引き起こす可能性があります。塗布後の部品交換の際には、ピン穴周辺のマエストロをよく除去して絶縁性を確認してから新しい部品を取り付けて下さい。

当店では、お客様がマエストロを塗布されたことによりお客様の機器に障害が発生した場合でも一切免責とさせていただきます。

2003/04 PractSoundSystem